「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集：FXニュースレター　　執筆担当：斎藤登美夫

▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼

◇◆◇　No.0153　◇◆◇　　11/12/07

【　12 月はドル高有利、そのワケとは　】

為替市場では「広義の円キャリー・トレード」とでも言うべき動きが観測され、ドル/円を中心に円高を抑制する一因になっているとの見方がある。また、それ以外でも目先のドル高を支援すると見られるファクターが一部市場筋のあいだで広がり始めている。そもそも論として、経験則の観点からすると12 月はドル高有利と言われており、実際に 1990 年以降の 12 月ドル/相場の勝敗を調べてみると 13 勝 8 敗だった。何故 12 月はドル高が有利なのか、幾つか理由があるなかから 3 つを取り上げ、以下でレポートしてみたい。

＜＜　広義の円キャリー・トレード　＞＞

円キャリー・トレードとは、主としてヘッジファンドなどの投機筋が低金利の円を調達し、それを元手として高利回りの新興国などで運用することを言う。運用にともない為替市場では高金利通貨買い・円売りが発生するため、円安の要因としてかねてから警戒されてきた。
そんな純粋（？）な円キャリー・トレードとは一線を画すものの、欧州系銀行などによる年末に向けたドル資金調達という同様のオペレーションが断続的に観測されている。1990　年代の後半、日本の金融機関が海外の金融市場から資金調達するとき通常よりも高い金利（いわゆる「ジャパン・プレミアム」）を課せられ、為替市場で期超えの円資金を調達したーーということがあったが、今回も似たような動きとなり当時とは逆にドルの強力な支援要因となる可能性も否定できない。

＜＜　ボーナス支給にともなう外貨投資　＞＞

いわゆる「値ごろ感」という感覚なのだろうか、日本では円高に振れるほど個人投資家の外貨投資が増える傾向にある。レベル的に考えると、足もとのドル/円が 80 円以下で推移している相場付きなどはまさにうってつけの環境といえよう。
さらに 12 月はボーナス支給の時期に当たることで、証券会社など各金融機関も高めの利回りなどを謳った個人向け外貨建て投信や新規外債など商品ラインナップを揃えてくる。日柄的にも日本から個人投資家の資金が流出しやすいわけだ。払い込みがピークに達すると予想される今月半ば、つまりは来週あたりの相場動向はクリスマスをにらみ商いが一段と薄くなるなか、とくに注意が必要なのかも知れない。思わぬ円安が進行しても不思議ではない。

＜＜　「1 月効果」の前倒し　＞＞

以前にも書いたように、「すでに利益を挙げている市場参加者」は　11　月末の米感謝祭からクリスマスぐらいまで、リスクをともなった取引を見送る傾向にある。しかし、これを逆に言うならクリスマス以降は為替取引に再び戻ってきて、年末・年始には取引を実施することになる。つまり、「利益を挙げている市場参加者」にとってクリスマス以降の相場は、実質的な新年入り、新たな月あるいは四半期が始まった感覚であるのかも知れない。
一方、株式市場を中心に金融市場では「1 月効果（ジャニュアリー・エフェクト）」という言葉がある。これは 1 月の米株相場は何故か上昇し、投資した場合に高いパフォーマンスを挙げられることを指したものだ。そんな「1　月効果」を先取りした期待の動き、つまりは一足早い米株投資、米株購入に向けた海外勢の動きから年末、年始はドルが比較的買われやすいという傾向もうかがえる。12　月末にかけては「1　月効果」の前倒しもドル高の支援要因として無視できないだろう。（了）

▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼

当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。
なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

◆◇◆　Copyright　(C)　fx-newsletter limited　company All Rights Reserved　◆◇◆